

# シーリング ニュース



## 創刊号・目次

- ◎創刊に寄せて 青木 済会長…………… 2
- ◎発行にあたって 金子 譲…………… 2
- ◎各委員会活動目標 …………… 3  
 総務委員会、技術委員会、広報委員会、シーリング管理士検定委員会
- ◎支部だより …………… 5  
 北海道支部、仙台支部、名古屋支部、大阪支部、  
 広島支部、福岡支部

# 創刊に寄せて

会 長

青木 濟

去る5月18日の総会で会員各位のご推挙により、会長の重職を仰せつかって以来、会の役員諸氏と共に非力に鞭打って懸命に努力して居りますので、今後共一層のご協力とご支援をお願いいたします。

工業会の発展は会員の皆様の結束と協力が大切である事は言うまでもないことでありますが、この結束に必要な情報の伝達浸透が、従来いささか不足して居ったのではないかと反省されます。

そこでこの不足を補う意味で、今年度より新たに『シーリング ニュース』の発行を企画し、広報委員の方々に御苦勞を強いて、ここに創刊号を御届けする運び

広報委員会委員長

金子 讓

6月24日に行われた第129回定例理事会において、当広報委員会の年間行事計画が承認されましたが、77年度は新しい試みとして“シーリングニュース”を年4回発行する事になりました。“シーリングニュース”はB5判小冊子で、まず会員各社の相互理解を深めると共に本部および各支部あるいは各委員会、分科会の動向を理解しやすい方法で会員各社にお伝えする手段として利用して行く方針であります。

従来事務局のお骨折りで毎月理事会議事録が会員の本社所在地のみに配布されておりますが、会員各社は全国に支店、営業所を有する事も多く、配布先の増加が求められている事、また解説記事等の掲載は年一回



に至りました。

この記事の内容は総会で御承認を得た年度計画事業を完遂する為行われる理事会、委員会、分科会並びに関連団体、建築業界、諸官庁との会議の主要議事事項及其の活動状況が中心であります。この外に関連業界のニュース、市況、諸統計等も併せて掲載し逐次充実を図りたいと考えております。尚発行回数は3ヶ月に1回を予定しております。

この『シーリング ニュース』が会員の皆様に愛読され、業界の内容と動態を周知してご理解を深められる事を期待すると共に、会の運営に対する御意見や、御批判等がありましたら、忌憚なくどしどし寄せていただいて、より充実した工業会の運営に当たりたいと念じて居りますので、よろしく御協力の程お願いいたします。

## “シーリングニュース” 発行にあたって

発行の“シーリング誌”による他はありませんでしたが、今後はタイミングよく、かつ広範囲にニュースをお届け出来ると考えております。

この種の広報誌はともすれば継続する事に大きな困難を伴いがちですが、幸い各委員会活動が現在活発に行われており、また編集に熟達された工文社（月刊建築仕上技術発行先）のサポートを得られる事になり、発刊できる事となりました。

編集方針としては、当面理事会の動き、各委員会、分科会、各支部の活動を主に会員各位の窓口としてのページも順次設定して行きたいと考えております。よろしく会員の皆様方の御協力をお願い致します。

# 各委員会 活動目標

## 合同分科会年2回に

### 総務委員会

シーリング業界は今年に入ってマクロ的には回復の兆しをみせているとはいえ、第一線の営業活動を取囲んでいる環境の厳しさは依然変わってない様です。そして低成長経済が定着しつつある中で、会員・工業会に寄せられる事項は複雑・多様化してきています。この様な状況の下で、工業会がその事業計画を推進し、その目的を遂行していく為には、これ迄以上に、そして日頃からの外部関係業界と十分なコミュニケーションを図っていくことが是非とも必要になってきました。昨年度、外部有識者との懇談会を発足させ実現してきましたが、今年度よりその為の予算は総務委員会の活動費の中で計上され、その企画、実施は総務委員会で行っていくこととなりました。従って、総務委員会の主たるテーマは、如何にして外部とのコミュニケーションを推進させていくかにあります。

6月13日、今年度最初の総務委員会を開き、副委員長のポストック・ジャパンの小林茂之氏、日興社の岡本秀夫氏、三星産業の坂倉征孝氏の出席のもとに、行事予定の立案に当りました。下表に示した行事内容と日程がそのまとめであります。

行事内容 / 日程(月)	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1. 日シ協との材工懇談会	○			○			○		
2. 外部有識者との懇談会		○			○			○	
3. 合同会科会			○			○			
4. 親睦会：新年会								○	
ゴルフ			○			○			

(注) 上記の日程は定例開催時期を示すもの

以下行事内容に関し、簡単に補足していきます；外部有識者との懇談会は今年度事業計画の冒頭に挙げられていますが、シーリング業界の現状を理解いただき、よきアドバイスを得る機会を積極的に設けていきたいとするものです。唯一の施工団体である日シ協とは材工一体を常日頃の合言葉として協調してきました

が、需要家筋からの要望が多様化している現在、材工はより一層協調してこれに当らねばならぬと思います。これら二つの懇談会開催は四半期に1回のペースを予定しています。合同会科会は定期には年1回の開催でしたが、今年からはこれを2回とし、会員の皆様により積極的に工業会の行事に参画していただくと共に、会員の皆様が工業会に何を期待されているかをタイミングを失することなく把握し、事業計画に反映させていきたいと思っています。最後に親睦会ですが、新年会を除くと、会員皆様の参加が少なくその実をあげておりません。企画を担当している総務委員会として一工夫せねばならぬところですが、皆様にいいアイデアがありましたら是非お寄せ下さる様お願い致します。

## JIS改定、保証問題の検討

### 技術委員会

本年度はシーリング業界にとって、一段と重要な時期に来ていると考えます。それは市場においては過去10余年にわたって、カーテンウォール工法の導入に伴って弾性シーリング材が使用されてきており、またその間も使い方の改善およびシーリング材の改善など行われてきましたが、本年に至って更に根本的な使い方の見直しおよび各種シーリング材の適切な使い分けなどの検討が急務とされております。その1つは日本建築学会のJASS 8防水工事標準仕様書の改訂であり、また材料的には、すでに制定されているJIS-A5757試験法規格にもとづく各シーリング材統一の商品認定JIS化であります。またユーザー側による実績調査にもとづく問題点の集約と対応策、或は動的自然パクロ試験による性能限界の検討も始められており、またそれらに附随する保証問題など本年度対処しなければならないことは山積みされています。従って、技術委員会としては以上のことを考慮して次の活動目標を設定致しました。

活動目標および現況

#### 1. JIS改訂に対する協力

JIS-A5754、5755の改訂に伴ってウレタン、アクリル、SBR、ブチルを含めた6品種統一した一本化の商品認定JISの検討が7月11日の第一回本会議より開始されました。また今回は油性コーキングが1本化の対象外と最終的に決定されております。完成予定はS53年2月末になっています。

#### 2. 保証問題に対する検討

保証問題については、①保証年限の工業会見解の検討

と②適切に使用されるための必要条件との2つのテーマがあり、①については、前年度において2年間という見解を示してありますが、更に3年間という新提案に対して現在検討中であります。また②については前年度の検討に引き続き、具体的な部位別、材料別の必要条件の検討を行い、現状におけるベターな条件をまとめる予定であります。

### 3. 工業会標準色の設定

前年度にて色見本が決定していますので、本年度においては、9月までに製作し、10月に各会員2部の配布を行い、6ヶ月の検討期間を経た後、工業会標準色として発表する予定であります。

### 4. 実耐久性試験方法の検討

動的自然バクロ試験方法および装置の検討を外部有識者の指導を仰ぎながら進め、各会員への参考資料とする予定であります。

### 5. JASS 8 防水工事の改訂に対する協力

JASS 8 防水工事のうちシーリング工事の改訂に対して、工業会より3名が参加しております。会議は現在4回を数えており、現状および将来を考慮した改訂が進められております。

### 6. シーリング管理士検定委員会に対する協力

講習会、試験問題、採点などを通して検定委員会への協力を行います。

## シーリングニュース

### 年4回発行

### 広報委員会

4月よりスタートした広報委員会は東芝シリコン、小野田建材、横浜ゴム、サンスター化学工業の4社で運営することになりました。

76年度は、12月末にシーリング14号を発行、会員および関係先へ配布し、またシーリングハンドブックを編集し、発行しましたが、今年度はシーリング15号の発行とシーリングニュースを年4回発行する事を予定しています。特に本年度はシーリング工業会設立15年でもあり、シーリング15号は15周年記念号とし、内容あるものにして行きたいと考えており、その内容については現在会員よりアンケートをとり寄せ、会員各位の御要望を十分取り入れた内容として行くつもりであります。シーリングニュースはシーリング工業会の動きを主に、シーリングをとりまく各業界の動向、また会員各位の御意見欄等御要望に合わせ、会員相互のコミュニケーションを計る場にして行くつもりでありますので、その内容の充実について各委員会および会員



各位の御協力をお願い申し上げます。

その他広報委員会としては管理士検定委員会への協力等各委員一体となって努力して行きたいと考えます。

## 二級管理士の 再教育講習を来年一月に

### シーリング管理士検定委員会

日本シーリング工業会が認定するシーリング管理士の評価が、年を経る毎に高まりを見せていることは誠に同慶の至りであります。現在、管理士資格の保持者は434名に及び、それぞれ第一線に於いてシーリング防水工事の管理運営に当たっていることは心強い限りであります。昨年のシーリング管理士規約改訂によって、その期待される資質についても明確となりました。これを受けて、当委員会と致しましても、養成カリキュラム、再講習内容、出題内容を抜本的に改訂し、時代にふさわしい管理能力を主眼とした取組みをすることとしています。

#### 本年度実施目標

- 2級管理士の再教育講習を各支部単位で実施します。(53年1月)  
現在の証明書の期限は昭和53年3月末となっていますので、この講習を受けることと、ゴンドラ教育の修了証を取得していなければ更新されません。
- 2級管理士の新規養成 (53年1月)  
講習 2日間 各支部ごと  
試験 1日間 全支部統一日時
- 1級管理士の養成 (53年2月)  
講習 3日間 本部で実施  
試験 1日間 " "
- 諸手続ならびに関係文書様式の整備
- 規約の一部改正

などの具現化推進を行います。ご高承の通り、工業会が直面している「年限保証」につきましても、工事管理と表裏一体の取組みなくして論ずることはできないわけであり、労働省認定のシーリング防水技能士の誕生を待望すると共に、当工業会認定の管理士制度のより充実向上に、会員各位のご理解とご協力を願って止みません。

# 支部だより

## 6月28日役員改選さる

### 北海道支部

北海道にもやっと夏がやって来た感じです。この不況の中で、支部のメンバーも日夜がんばって居ります。去る、6月28日に久しぶりの会合を開き、昭和52年度の役員改選が次の通り、決定しました。

支部長 セメダイン(株)  
副支部長 (株)ABC商会  
会計 三洋工業(株)

なおこの会合に引続き、市内グランドホテルに於ける日シ協の総会にご招待を受け参加しました。夕方からは親睦会があり、日シ協山本会長をかこんで、なごやかに、かつ盛大に行われました。

さらに、翌29日は、日シ工、日シ協共同の親睦ゴルフコンペを札幌国際カントリークラブ島松コースで行い、次のような成績でした。

優勝 信越化学(株) 河村氏  
準優勝 (株)浜建 浜野氏

北海道では、気象条件もあり5月から10月の6ヶ月間は年内でも最も忙しい期間です。この貴重な時に、一同に会し、このような楽しいひとときを過ごせたことは、非常に有意義な事と思います。

日シ協の会長のお話しにもありましたが、一軸につながった二つの車輪の如く、今後も協調し合って進んでいきたいと思ひます。

## 工事業協会との協調

### 仙台支部

仙台支部は昭和50年の結成で、本年3年目を迎えたわけですが、おかげ様で会員各位の深い御理解御努力によりすでにいくつかの成果は現われたと喜んでおります。現在仙台支部会員は本社を東京に置く出先事業所10社と少ない会員ですが前向きの姿勢の中で、業界発展の為意気さかんです。

昨年来より支部会員の強い要望で東北にも施工にたずさわる人達の会を必要とする声が多く、東京には「日

シ協」があるように東北にも同様な組織を育成し、我々メーカーと施工店との協調が業界発展の基本という原則の上に立ち、施工にたずさわる地元業社に工業会の主旨を説明し御理解をいただき本年東北シーリング工事業協会の誕生をみる事ができました。本年はそうした意味合いから仙台支部の本年の事業計画にある様に、本年の大きな課題は、この工事業協会との協調にあると現在は親睦を通じ相互理解に努めています。近く「日シ協」加入により日シ協仙台支部としてスタート出来ると信じております。また東北の将来には多くの企業が注目し、それぞれの計画の上に進出しています。現実にはこの低成長下にあつて需要の不振は我々業界も同様であり、全国でも激烈の価格競争が行われているようです。我々メーカーとしての販売姿勢を促せられます。

こうした問題をも含め今後更に会員との親睦の中で相互理解を深め業界発展を願ひ尚一層の努力をする所存です。

## 支部長に建材化工(株)の河合氏

### 名古屋支部

当支部は第8回通常総会で、52年度の役員として、支部長に建材化工(株)の河合氏を副支部長に小野田建材(株)の平戸氏を選出し、活動に入っております。

本年度の事業計画は、

1. 本部及び支部との情報交換及び連絡協調
2. 日本シーリング工事業協会との協調による技術の向上と適正価格の維持
3. シーリング管理士の育成と教育の強化
4. PR活動の推進
5. アウトサイダーの加入勧誘
6. 懇親会の開催

となっております。

現在までに実施した主なものは

- ①日シ工及び日シ協との合同役員会
- ②日シ協及びその賛助会員との親睦会の設立  
名称をSK会として、既にゴルフコンペを2回開催しております。
- ③シーリング管理士制度の改訂により、2級シーリング管理士は Gondola 運転の特別教育修了証所持者の受験資格が明記されているので、5月に Gondola 講習会を実施しております。

なお、当支部は、52年3月末日現在で24社の会員を有しており、新規加入を促進中です。

また財政についても、諸物価高騰の為、逼迫しておりますが、4月より会費を値上げして、活動内容を充

実すべく頑張っております。

## 会にも損益分岐点

### 大阪支部

昔も今も、組合とか協会の存在する精神には違いないが、古い時代には組長とか会長は特権保有の者が多く、威力的な指導性を有して運営の衝に当るのが多かった。それらは経費の負担とか人手間の供出に余り問題感を持たず、親分とか親方気取りで万端の行動をお手盛り式に押し進める独裁の弊風もまた夥しかった。当時は日本政府も、旧幕時代の権力者や郷家、皇族を以って枢密院を設け次に華族や多額納税者が貴族院議員を組織し、衆議員も選挙権を持つのは特定の人であった。このような時代であるから、慣習的にある老舗的な保有者が持上げられて、この親方政策に暴走しても黙認をする時代があった。その時代は地豪や町会長や親分級の者は殆ど事務所を彼等の便利な箇所において独裁の方針の基に物事を運び、協議も衆議、協調も省略して爾後報告のようなことが多々あった。そうして経費も主権者負担の額が大きいため、自然その動きに反論なく経過する有様であった。一概にはいえないが、旧時代の会や組合の姿はこのように損益分岐点の摘出は不可能であった。

ところが、新時代は国家の政体が民主化と同様に会も組合も総て会議性であると同時に、運営も事務に関して会員外の中立性の者の運営を必要とする。但し同窓会や営業を加味しない町内会、親睦会などは当番幹事で処理出来るであろう。

今述べる企業の発展を計るための同業組合とか、同一企業の団体運営に対しては、会費という投資と、運営費という消費と、効果という利益。これが損益分岐点の明示を現わすことに成る。

ここで今一步踏込んで分析すると、実質的に数字に現れる利益授受の組合とは統制時代の様に原料の配給とか、労務者の認可雇傭制の官許の組合とか、協同組合として法人化して特定の融資を受けるなどのものがある。次に間接的利益を見るものとしては、会員が扱

う商品の規格の統一、価格の適正化、業界の社会的地位の向上、合同研究並に調査及普及など、個々に於ては不可能に近いような事柄も共同によって可能となる事項が多分にある。是れを間接的受益という。この後者を積極的にとらえるかととらえないかが、その団体の真価というのである。ここに於て即ち形式的に名を連ねるのみにでは会費の空費に失し、然しまた行事の充実を求めようとすれば、会費の適正化を検討せねばならない。是れを会にも損益分岐点があるという。次に会の事務局態勢を整備しても行事がないという消極論もあるが扱て然らばその現況が飽和点にまで充実しているかということを考えて見る。この充実とは、その業種が現在社会にどれだけ浸透しているかを展望すればよく判る。ここに一例を述べると海藻(のり)は徹底した周知のものであるが、今尚消費に合同宣伝を行い、また塗料も毎年五月に塗料祭を以ってPRしている。こう論ずれば品種用途が異るとの声が出るであろうが、シーリング材というものを日本中で幾万人知っているであろうか。

今一段岸を登りて 見る花火 千青

## 管理士育成を最重点目標に

### 広島支部

広島は、大阪と福岡のほぼ中間にあるが、新幹線の開設以来大阪との交流が多くなり、大阪の市況の影響を多分に受けるようになった。しかも、最近の景気停滞下にあつて建築物件が少ないことは業界の競争激化を誘引し、建築諸材料の価格も通り難くなっているのが現状である。シーリング材に関しても例外ではなく、他地区に較べて価格が下廻っているといえる。

当広島支部は会員会社12社で運営しているが、この会員数では支部の運営に充分とはいえず、会員の増加に努めている。とくに、当地区には上述の如く周辺との交流が多くなったため、非会員会社の商品も多数市場に見受けられるようになったので、これら会社への入会勧誘の必要性も痛感される。(広島に営業所をもたない会社で会員会社になっているので1社のみ)

他方、当支部においても日本シーリング工事業協会(日シ協)と密接な連携を保ちつつ諸事業を進めているが、シーリング管理士の育成は当面における最重点項目の一つに挙げている。すなわち、近時各ゼネコンは施工店に対して管理士の存否を重視しており、管理士制度について強い関心を示しているからである。当支部としては、多くの管理士を生み出すことによって、総ての建築物件について優れたシーリング工事を施工し、管理士の評価を挙げてゆくことを期待している。



なお、当支部は50年10月に実施した新J I S設定に伴う講演会が成功裡に行われたので、会員各社の要望を集めて日シ協との共催で講演会を催すべく企画しており、これらの催しへの参加によって会員各位の知識向上に寄与したいと考えている。

最後に、当支部の活動について触れると、当地区は営業所クラスの出先機関が多く占めており、その殆どが営業活動のかたわら支部活動をしているので、その活動内容にも自づから制約があるのはやむを得ないことと思われる。しかし、これは本部の御支援と、支部会員の相互扶助の精神をもって支部を盛り立ててゆくならば、更に活動範囲も広がり、支部の存在も高く評価されるようになるものと思うし、またそのようにしてゆかねばならないと願っている。

## 材工一体化を柱に共倒れを防ごう

### 福岡支部

福岡でもご多聞にもれず、一般的な景気回復は遅々として進まず、地方紙の報道によればこの6月の当地区の企業倒産件数、金額は過去最高となっており、益々深刻さを増しているという見方が強い。

福岡周辺の物件は、新幹線乗り入れ以来、ここ1~2年の間大丸デパート、天神センタービル、天神コアビル、同地下街、岩田屋デパート新館、全日空ホテルなど結構物件としては賑やかであった。さらに引続き千代田生命ビル、ホテルニューオータニ、労働会館、福祉センター、福岡歯科大、産業医大、地下鉄、県庁の移転など多彩である。

しかしこの表面の華やかさとは裏腹に、見積単価の競合は激しく、落札単価は益々厳しくなっている。業界としては、この辺で各社の自覚と抜本的な対策が講じられない限り、共倒れの危険性をはらんでいると云わざるを得ない。

このような環境の中で、福岡支部としては材工一体

の原則を基本に、技術の向上と適正価格の維持のための努力を続けているが、まだまだ問題は多く、道のりは決して楽ではない。

当支部は去る5月28日、熊本県菊池温泉にて、新年度の総会を開き（日シ協も同日、同場所で新年度総会をひらいた）次のように事業計画と新役員を選出した。

#### <52年度事業計画>

1. 日シ協との協調による支部活動の推進
2. 市況安定と適正価格の維持
3. シーリング管理士の育成
4. 関係方面へのPRの徹底
5. 懇談会の開催

#### <52年度新役員>

支部長	信越化学	渉外幹事	住友スリーエム
副支部長	横浜ゴム	" "	セメダイン
会計幹事	コニシ	会計監事	サンスター
管理士幹事	トーレシリコーン		

また今年度の主な事業経過は、

- 4月5日 合同幹事会
- 4月8日 新年度幹事候補選出（郵送投票）
- 4月22日 臨時幹事会
- 5月6日 新旧合同幹事会
- 5月28日 新年度総会
- 6月23日 合同幹事会
- 6月24日 日シ協アウトサイダー調査協力となっている。

梅雨明けと同時に、いよいよ商戦は夏の陣たけなわとなるが、シーリング業界のもつ課題の消化もさらに多忙となる。今年も管理士講習、防水技能士、職訓、品質保証など……一連の取組み達成すべきテーマは多い。また最近では、大手ゼネコンの中でも、シーリング全般についての勉強会が開かれており、材料の物性、施工の技術、アプリケーションを含めて、関係者が意見を交換し、当地のシーリング業界のレベルアップに努めている。

## 事務局だより

### 事務局

会員各位には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。この度工業会広報誌『シーリングニュース』の刊行をみました事は真にご同慶に堪えません。

現在会員への広報誌としては、年一回刊行の『シーリング』誌しかなく、他に事務局による月報がありますが、体裁が余り芳しくなく読みづらいきらいがありました。本誌の刊行でその弊がのぞかれることと思っております。

事務局としても本年度はJ I S改訂、新設、保証関係、一級管理士養成等重要問題山積しており、それらの伝達・通報には万全を期しますが、会員各位のご指導ご鞭撻の程お願い致します。

また近時前記諸問題検討に際し、アンケートによる調査も多くなると思いますが、成可多数の会員のご回答が得られる様希望致します。さらに委員会・分科会・その他打合会のご出席が少ない様見受けられますので一層の出席ご配慮頂ければ幸いです。

尚事務局へのご注意ご希望があればどしどし御申出下さい。

---

# 日本シーリング工業会

東京都千代田区外神田2-2-17 共同ビル

TEL 03 (255) 2 8 4 1 ~ 2

編集協力 (株)工文社 東京都千代田区外神田2-1-6

TEL 03 (253) 4230 ・ 3835

---